

令和8年度 京都府立洛水高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 計画段階 ・ 実施段階 ）

学校経営方針(中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点
<p>すべての生徒が輝ける学校 ～ 一人一人の可能性を最大限に引き出す学校 ～</p> <p>◆校是「自主・自律・挑戦」 ◆教育目標</p> <p>1 「自主・自律・挑戦」の校是に基づく指導を行い、自らを律し、学び、考え、行動できる人間を育成する。</p> <p>2 キャリア教育を中心として、学習活動、学校行事、部活動等を通して人間性豊かで、社会に貢献する高い志を持った人間を育成する。</p> <p>3 個々の生徒の資質、能力を伸ばす手立てを工夫し、学力を伸長することで、希望進路を実現させる。</p> <p>4 学校の指導方針、内容を明確にし、地域社会に信頼される、開かれた学校づくりに努める。</p> <p>◆スクール・ミッション 一人ひとりの進路希望に対応した教育活動を実践する普通科を設置する高校として、課題発見能力と確かな学力を身に付けることによって、自らの意思で自らを高め、新しいことに挑戦する人材を育成する。</p>	<p>1 成果</p> <p>(1) 基礎学力定着への取組の進展 セカンドラーニングや定期考査前補習を継続し、個に応じた学習支援により基礎学力の定着を図った。</p> <p>(2) 生徒支援体制の強化 出身中学校や児童相談所、地域支援センター等と連携し、困難を抱える生徒への支援を粘り強く実施し、成長を支える体制を維持した。</p> <p>(3) 洛水式キャリア教育と地域協働の深化 地域との協働学習を進め、将来展望を育み、地元企業を中心とした就職に繋げることができた。次年度に向け、教科学習と総合的な探究の時間の取組を連携し、体系的キャリア教育となるよう計画を見直した。</p> <p>(4) 学校生活適応支援の強化 学期当初の面談体制を整え、保健部や教務部等と連携し生徒の学校適応を支援した。</p> <p>(5) 安全指導の推進 京都府・警察・地域と協働した交通安全指導により、自転車マナーが向上した。</p> <p>2 課題</p> <p>(1) 危機管理の未然防止体制の強化 自殺・いじめ・薬物等を防ぐため、教職員の気づき、情報共有、研修の充実が引き続き必要である。</p> <p>(2) 生徒実態に応じた授業改善と評価の見直し 生徒の多様な実態に対応した授業改善、学び直しの体系化、評価方法の改善が継続課題である。</p> <p>(3) 自己肯定感・自己有用感を高める教育の充実 生徒が「大切にされている」と実感できる指導のさらなる工夫が求められる。</p> <p>(4) 広報とICT環境の改善 ホームページに加え、SNS等を活用した効果的・戦略的な広報体制の強化が課題である。</p>	<p>1 危機管理の徹底 危機管理を徹底し、安心・安全な学校環境をつくる。自他の生命を大切に、健康で安全な生活を送るための意識・態度・実践力を育成する。(自殺・いじめ・薬物乱用・教育活動中の事故・登下校時の交通事故等の防止)</p> <p>2 人権教育の深化 多様性尊重を基盤とした人権教育を計画的に実施し、差別や偏見を許さない態度を育てる。生徒の自己肯定感を高める指導を、授業・HR・学校行事全体で推進する。</p> <p>3 基礎学力向上と教育課程改革の推進 学び直し「学びの道しるべ」を教育課程に位置づけ、基礎学力の確実な定着を図る。指導と評価の一体化を進め、個別最適な学習支援を強化し、一人ひとりの希望進路実現につなげる。</p> <p>4 生徒支援の充実</p> <p>(1) 「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成」という生徒指導実践上の4つ視点に留意し、教科指導と生徒指導を一体化させた授業づくりを進める。</p> <p>(2) SC・SSW・学年部・保健部・関係機関との連携を強化し、生徒の困難に寄り添う組織的支援体制を構築する。</p> <p>5 洛水式キャリア教育の推進 自己と他者を大切にする心を育て、自ら行動を決定する力や社会で役立つとする意欲を高めることで、自己肯定感を醸成し、生徒のキャリア発達を促す。</p> <p>6 特別活動、部活動を通じた主体性育成 学校行事・清掃活動・部活動の充実を図り、生徒の社会性・自己有用感を育成する。生徒会や委員会等による主体的な企画・運営を支援する。</p> <p>7 広報活動の充実 ホームページやSNS等を活用した効果的・戦略的な広報活動を推進し、地域、中学生、保護者等に洛水高校の魅力を発信する。</p>

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
教務部	基礎学力の充実	学び直し「学びの道しるべ」の円滑な実施と充実、基礎学力向上を目指す。授業規律の確保、欠席者・遅刻者の減少に努めるとともに成績不振者に対する指導の充実を図る。	3教科(国語・数学・英語)において、「学びの道しるべ」を実施し、第1学年の基礎学力の定着に取り組むとともに、指導方法を定期的に振り返り、個別最適な学びの実現に向け改善を図る。		
			学年部・各教科との連携により、授業規律の確保に取り組む。またICT機器の有効な活用機会を増やし、生徒が主体的に学習に取り組める環境を整える。		
			学年部や生徒指導部と連携し、朝の遅刻が減少するように指導を行う。授業の遅刻・欠課過多者について学年部・教科担当者との連絡を密に行い、欠席超過による単位不認定とならないよう指導を行う。		
	教育課程	特色ある学校づくりに向けて、学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程の適切な実施と授業改善に努める。	各教科と連携し、3年間を見通した授業の充実を図る。分掌・教科等と連携して授業の状況を適切に振り返り、改善点の検証を行う。		
			年間授業計画に基づいた授業の実施と指導と評価の改善を行う。	年度当初の授業で「シラバス」を生徒に配布し、授業内容や評価の観点等を伝える。教科主任会議において、指導方法や評価方法についての検討を継続し、指導と評価の一体化を進める。	
人権教育	教育活動全体に人権教育を適切に位置づけ、一人一人を大切にされた教育の推進を図る。	人権教育について工夫・改善に努めるとともに、3年間を見通した人権学習を計画して実施する。			
図書館運営	図書館教育を通して生徒の教養の充実を図る。	図書館利用指導・読書指導の充実を図り、教科との連携、生徒の委員会活動・部活動との催事共催等を推進する。図書委員会交流会に向け、図書委員会活動の活性化を図る。			
生徒指導部	生活指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上	生徒の変化にいち早く気づき、寄り添いと対話を大切にしながら保護者等との連携を図り、生徒の問題行動の未然防止に努める。授業規律の確立、遅刻指導、身だしなみ指導などでは教職員が組織的に取り組み、安心・安全な学校風土を意識して行動できる生徒の育成を目指す。		
			交通安全指導の強化	警察やPTA、地域と連携して交通安全教室や登下校指導を実施し、交通事故の防止と自転車乗車マナーの向上を図る。また、事故発生時に生徒が適切に対応できるよう指導を行う。	
	特別活動	自主・自律の伸長	生徒会活動および部活動の活性化を推進する。学校祭をはじめとする特別活動や学校行事では、生徒の自発的な発案・企画・運営を重視し、活動の充実を図る。さらに、地域とのつながりを深め、ボランティア活動等にも積極的に取り組む。		

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
進路指導部	進路指導	希望進路100%の実現を目指し、支援の充実を図る。	進路ガイダンス・キャンパスツアーを中心に、進路意識向上のため取組を充実させ、進路意識を高める。				
			多様な入試や就職試験に対応できるように、進学補習・就職や面接、小論文の対策講座等を開講し、希望進路実現のための支援を計画的に行う。				
		多様で変化する情報の整理と的確な情報の提供。	各学校や就職の動向・現状を的確に把握し、生徒への情報提供を充実させる。また、保護者・担任・各分掌と密に連携し、生徒一人ひとりの状況に応じた情報の提供および共有を行う。さらに、模擬試験結果を効果的に活用するための方法について提案していく。				
保健部	健康安全教育	健康診断の教育的活用と事後指導の徹底を図る。	生徒の健康状態を把握すると同時に生徒自身に自らの健康状態を理解させる。健康相談や感染症予防などを季節に応じて促す。個別に応じた方法で基本的な生活習慣の確立を促す。				
		生徒の心身の健康保持と安全の確保に努める。	保健委員会において、感染症予防など、保健だよりの作成を行う。また、健康診断の準備など率先して行い、健康と安全保持に務める。自ら健康・安全管理ができる姿勢を養うとともに自主的な活動を支援する。				
			教育相談・特別支援教育の充実と支援が必要な生徒に対し、スクールカウンセラーやまなび生活アドバイザーとの連携を深める。また、必要に応じて外部の支援機関にも繋ぎ、生徒の成長と発達を支える働きかけを行う。				
		校内美化の活動を推進し、環境に対する生徒の意識向上を図る。	環境委員会を中心にゴミの分別意識を高めるとともに、日々の清掃活動や学校行事での活動を充実させ、清潔で落ち着いた学習環境を作る。				

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
総務広報部	洛水式キャリア教育の推進	洛水式キャリア教育を推進し、コミュニケーション能力の向上や希望進路先を考える機会を作り、社会で生きる力を育成する。	1年生では、自他理解を通して様々な価値観に触れる。2学期の課題探究学習では協働的な活動を通して自ら考え、意見をまとめ、発信する力を育成し、洛水式キャリア教育の企画推進に努める。 2年生の総合的な探究の時間において、総務広報部の担当者と学年等と連携を密に取り、プロフェッショナルインタビューやインターンシップを中心とした洛水式キャリア教育の企画推進に努める。				
	広報活動の推進	他に無い本校の魅力を中心に発信し、地域社会に信頼される開かれた学校づくりに努める。	ホームページやさくら連絡網、Instaglamの活用を増やし、学校行事、部活動、生徒会活動、HR活動など本校の魅力を保護者や地域社会に発信する。 学校説明会、部活動体験、個別相談会や中学校訪問、出前授業等を通して本校の魅力・特色を中学生、保護者に発信する。				
	ICTの推進	ICT機器、Microsoft365アカウント、生徒学習用端末の保守・管理、ICT機材の整備	学習用端末の整備、生徒と教職員が安心して使えるICT環境の充実を図る。入学から卒業までの一連の管理運用について生徒が安心して使用できるようにサポートを行う。				
	PTAとの連携	組織の活性化を図り、学校と家庭との連携を図る。	日頃からPTA役員との連携を図り、各種行事等を通して、PTA活動の発展に寄与する。				
第一学年部	学習・進路指導	授業を大事にする。授業への取り組み姿勢を良くし、課題や提出物を確実に出すことで確かな学力を身につける。	教科担当者と連携し、学力向上に積極的に取り組む。学習管理係を中心に、提出物を確実に出す習慣を身につけることで、基礎学力の向上を図り、進路実現に向けた学力を培う。				
	基本的な生活習慣の確立	基本的な生活習慣を確立し、進級・卒業に向けての基礎を確立する。	生徒の欠席や遅刻の減少に努める。併せて、1往復半のコミュニケーションを実践し、生徒理解に努めることで基本的な生活習慣の確立につなげる。				

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
第二学年部	基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・学年や学級が「自分の居場所である」という感覚を生徒が持てるような学年、学級経営を行い、生徒が毎日登校できるような環境を整備する。 ・常に生徒の実態把握に努め、遅刻や欠席を減らす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や日頃のホームルーム活動を通して、言葉遣い、人間関係の構築方法、協調することの大切さなどを説き、教室が心理的安全性が確保された場所であることを目指す。 ・生徒との対話を重視し、常に生徒の生活状況を把握して適切な声かけや指導を行うことで、生徒の心理的なケアを行い、生徒の学校に向かう姿勢を整える。 ・学年協議賞会や部活動アッセンブリを通して、学級活動が自分自身を表現できる場所となるよう、助言を行い、生徒の自主性や自己肯定感を高めていく。 		
	学習指導 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が学びに対して前向きに取り組める環境作りを行う。 ・キャリア教育を通して自分の将来を見据えて、主体的に進路を選択する力を養う。 ・研修旅行を通じて、自然や文化に触れることの意義や人と交流することの大切さを学ばせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ルールを明確化し、授業担当者と連携して指導にあたる。特にスマホやタブレットの使用方法については指導を徹底し、生徒の授業に向かう姿勢の形成を目指す。また、一人一人が学びに向かうために、教室が安心して自分を表現できる場所になるように、互いの意志や意見を尊重する空気を作る。 ・キャリア教育や日頃のホームルーム活動を通して、自分自身の今後の進路と向き合う姿勢をつくる。 ・研修旅行を通して、様々な仕事に触れ、職業や社会に関して興味を持たせ、自分の将来について考える機会とする。 		
第三学年部	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻欠席を減らしていく。 ・教室内の環境を整備し、学習環境を整えた状態を維持する。 ・あらゆる場面で時間を守る意識を持つ。 ・進路決定後においても、生活習慣が乱れないよう、卒業後の生活を見据えて自律できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻する生徒に対して声かけと小さな変化を見逃さない指導を継続する。 ・クリアブック等を活用し、定期的にプリントを片付けさせて学習環境を整える指導を行う。 ・定期的な学年集会を行い、時間を守る意識、清掃し学習環境を整える意識を高める指導を行う。 ・進路決定後も、HRや学年集会、学年通信などで、成人として自律した行動がとれるような呼びかけを行っていく。 		
	学習指導 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生全員の卒業と進路先の決定を目指す。 ・日頃の授業を大切に、考査前に自立して学習する習慣を身に付ける。 ・配布物の管理と提出物の期限を守ることを習慣化し、期日や期限を守ることの重要性を認識する。 ・自分の進路について情性で決定するのではなく、与えられた情報から適切に判断して最適な進路を決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部との連携を行い、HRなどで全体への声かけや個人面談などを通じて進路の確認と意識付けを行う。 ・進路情報をこまめに提供する。 ・教科担当教員との連携を密に取る。フロアの巡視を行い、学習状況を確認する。 ・部活動関係で進学する生徒が一定数いるため、部活動顧問との連携を取り、進路指導を行う。 		

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
事務部	施設・設備管理	学習環境の整備 設備・備品等の改善	安心・安全な学校づくりのため、危険箇所の早期発見と対応に努める。 また、関係部署と連携し、最適な学習環境の整備を図る。				
			中・長期的修繕計画を策定し、計画的な改修に努める。				
	修学支援	安心した教育機会の保障のための援護制度の周知	各種援護制度について周知方法の工夫をし、分かりやすく丁寧な対応を行うことにより、生徒・保護者の経済的不安を軽減する。				
会計管理	効果的な予算執行と適切な会計事務処理	分掌・教科と連携し、限られた予算の中での効果的な予算執行に努める。 職員相互チェック・確認体制の定着化を計る。					

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

教科	評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
国語科	教科指導	授業を大切にさせる	毎時間の授業に必要な教材を準備させるとともに、復習に取り組ませることができるよう、充実した課題の設定に取り組む。		
		基礎学力を定着させる	全学年を通じて、継続的な授業内課題・小テストを実施し、基礎的な語彙力を確実に身につけさせる。		
			1年生で実施する「国語の道しるべ」では、生徒個人の現在の学力を把握して必要な支援を行うとともに、生徒の状況を観察して授業改善を行う。		
		主体的に学習に取り組む態度を養う	国語を学ぶ意義を理解させ、主体的に学習に取り組む態度を養う。		
地歴公民科		社会全般の知識の定着	基礎的な知識や用語を定着させるために、授業内で小テストや復習を実施して定着を確認する。ICT機器や写真資料などを活用して、視覚的にイメージしやすいような授業づくりを心がける。教科書の内容をしっかりと理解させることを心がけ、授業で扱う内容を精選していく。		
		社会参画への意識の向上	授業を通じて、現代社会の諸問題について読み解く知識や視点を取得させる。そのために授業内で問いを設定し、自分の意見を考えさせる機会や、他者の意見を聴く機会を設ける。社会参画の一步となる主権者教育を充実させる。		
		主体的に学習に取り組む力を養う	学習姿勢の定着を第一とし、授業に参加する態度や学習ルールが守れるように声かけを粘り強く継続していく。また、授業への出席を第一とし、日々の授業での活動を評価に反映させる。		
数学科	教科指導	授業規律の確保と基礎学力の向上	1時間ごとの授業目標を明確に設定し、集中して学習に取り組めるよう工夫をする。 中学校までの学習内容をふまえて、年間を通して基礎学力の定着を目指す。ICTを活用してノートや学習課題などを提出させるとともに、家庭学習が定着するよう指導する。		
		進路希望実現のための学力を育成	習熟度別の授業を実施し、講座ごとに学習する内容・深度などを工夫して、入試にも対応できる学力の育成を目指す。本校では、入試に数学が必要な生徒が少ない状況があり、個別に対応することで進路希望の実現を目指す。		

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

教科	評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
理科	教科指導	「学びに向かう力」を重視し、確かな学力の育成	学力の三要素の一つである「学びに向かう力」を重要視し、確かな学力を育成する。そのために、授業支援アプリを積極的に活用し、日々の学習のポートフォリオの作成やパフォーマンス課題など多様な評価を実現する。		
		学び直しの充実	高等学校への学びにスムーズに接続するために、授業内での学び直しや考査前セカンドラーニングを設定し参加を促す。		
保健体育科	教科指導	運動の楽しさを知り、仲間と協力して積極的に活動する態度を養い、運動能力とともに豊かな人間性の育成を目指す。	仲間と協力し合い授業に積極的に参加する意識を持たせることで、規律・協調性・責任感など社会で生きる力と主体的に取り組む力を育成する。達成度合いをフィードバックすることで、より意欲的に取り組む態度の向上を目指す。		
		知識・理解を深めるとともに、課題学習を実践する。	健康に関する知識を身につけることで、自身の健康に対する理解を深める。フィールドワークや演習など、体験を通じて学ぶ機会を設けることで、様々な分野に興味を持つきっかけになるような授業を展開する。		
芸術科	教科指導	自己や他者を理解する心の育成	表現・鑑賞活動で多様な視点を身に付けていく。自己や他者の考えや思いに触れ、理解したり、共感したりすることを通して芸術の知識や技能、表現の幅を広げる。		
		授業規律の確立と確かな学力の定着	授業環境を整え、生徒ひとり一人の学習状況を把握し、学習に向かう姿勢を高める。生徒の興味や関心に応じて、ICT機器などを有効活用し、表現・鑑賞活動に取り組む。		
英語科	教科指導	・基礎学力の定着と学習習慣の確立	・学び直し「学びの道しるべ」を軸に、基本的な英語コミュニケーション能力に繋がる基礎的な内容の定着を図る。		
		・学習意欲の向上	・主体的に学習する姿勢を養うことを目標に授業改善を行い、指導と評価の一体化を徹底する。また個別最適な学習支援を強化し、英語が活用される様々な目的や場面、状況を提示することで、前向きに学習に取り組む姿勢を養う。		
		・進路目標の実現に向けた基礎学力の伸長と向上	進路希望の実現のために、必要な基礎学力・コミュニケーション能力の伸長を図る。またその定着を目指して、授業および補習などを通じて継続的に学習する姿勢を育む。		

評価 4 達成できている 3 ほぼ達成できている 2 あまり達成できていない 1 達成できていない

教科	評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
家庭科	教科指導	授業を大切にする姿勢を育成する。	授業規律を確保する。 授業の理解度を確認するため、課題の提出を徹底する。 基礎学力の定着を図るため、理解の程度に応じ指導内容を工夫する。		
		主体的に生活を創造する能力と課題を解決する力を身につけさせる。	時代の流れに即した内容を取り入れ、実生活に生かせるようにする。自己実現や自立に向けた課題解決力をつけるために、実践的・体験的な活動を取り入れて総合的に学習させる。		
情報・商業科	教科指導	日々の授業を大切にし、時間を有効に使う態度を育成する。PCやタブレット等を利用しICT教育教材を利用できる能力と他者に伝える能力を身につける。	ベル授業開始をおこない毎時間、課題・授業プリントの提出を徹底する。遅刻・欠課を減らす指導、欠課届提出の徹底を行う。 授業前自習を実施し、タブレットを使用したICT授業の可能性を探る。またスマートフォンの利用を模索する。		
		ビジネス社会・ICT社会に参画するためのICT機器活用能力の育成を推進する。プログラミング的思考を身につける。AIを活用し創造性豊かな思考を身につけることを模索する。	情報の理論的な理解、情報モラル育成を行う。 情報活用モラルを育成し、コンピュータ等を効果的に活用する能力の育成を行う。 個人、グループ学習を通じてコミュニケーション能力を高め、プレゼンテーション能力の向上を図る。		
学校運営協議会による評価					
次年度に向けた改善の方向性					